様式１：小学校

令和５年度　福岡県　英語教育改善プラン

目標

○英語で進める言語活動中心の授業づくりのための英語力・指導力の向上
○児童の４技能５領域の資質・能力をバランスよく育成する指導と評価の充実
（パフォーマンステストの効果的な実施）

１．現状

改善が進んだ点

①英語を使用する機会の増加に関することについて、授業における、児童の英語による言語活動の割合が第５学年及び第６学年で増加した。

②「話すこと（やり取り、発表）」を評価するためのパフォーマンステストの状況について、実施している割合が増加した。

未だ改善が必要な点

❶「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定について、「設定している」学校の割合が100%に至っていない。

❷「CAN-DOリスト」形式による達成状況の把握について、「把握している」学校の割合が100%に至っていない。

２．分析

①小学校教員の研修において講義、演習等を行い、言語活動の位置付けの重要性を共有し、各教育事務所の研修会で重点化した指導を行った。

②オンラインによる外国人講師とのパフォーマンステスト等を位置付ける等、評価の重要性を共有した。

❶他教科と同様に、指導書等を基に３観点での評価を行っている。

❷作成している「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の領域別の内容が、状況を把握する上で適切な内容になっていない。

３．施策・事業

①体験型英語学習推進事業の継続
モデル市町村において、英語体験施設を利用した学習及び委託業者による英会話教室（オンライン英会話を含む）を位置付けた学習を２回以上行い、言語活動を位置付けた学習を充実させた。

②各教育事務所主催の研修会等で、「CAN-DO」リスト活用の意義や活用例を共有し、授業に具現化する方法を理解させることができた。

❶各教育事務所主催の研修会等で、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定する効果について各市町村教育委員会の担当指導主事や各学校の担当者と共有し、設定を促す。

❷各教育事務所の研修会等で、「CAN-DO」リストの内容について、これまでの実践等をもとに見直す計画を位置付ける重要性を共有し、授業改善に生かす。

様式１：中学校

令和５年度　福岡県　英語教育改善プラン

目標

〇CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合54%
〇授業において50％以上の時間で生徒の英語による言語活動を実施している教員の割合80％

１．現状

改善が進んだ点

①授業の50%以上で英語を使用して言語活動を実施している英語教員の割合が増加した。(74.9%)
※昨年度比＋4.7ポイント
②スピーキングに係るパフォーマンステスト実施が大幅に増加した。（全学年：3014回）
※昨年度比＋493回

未だ改善が必要な点

❶ CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が減少した。(48.5%)
※昨年度比－0.8ポイント
❷授業の50%以上で英語を使用している英語教員の割合が減少した。(73.1%)
※昨年度比　-1.7ポイント

２．分析

①パフォーマンステスト（年４回）を県全体の目標として位置付け、各地区の研修会、授業訪問等で共有を図った。

❶教師間の差が見られる。生徒の言語活動の方法や内容等について、同学校内で共有されていない状況も見られる。協働した授業づくりが必要である。
❷授業において教師が使う英語を、生徒が全て理解しなければいけないと考え、日本語を多用する状況がある。教師が使用する英語の難易度を調整しながら授業を行う授業力向上が必要である。

３．施策･事業

①課題の要因に基づき継続する施策･事業
〇中学生英語スピーチコンテスト
県のスピーチコンテストを各地区の大会から組織、運営を行い各教室でスピーチ等の言語活動の充実を図っている。

❶改善が不十分だった要因に基づき行う施策･事業
〇中学生英語能力向上事業（英検IBAテスト）
全学年生徒を対象として英検IBAテストを実施する。その結果から、各地区の分析を行い、授業改善に向けた取組について、各教育事務所外国語担当指導主事を対象に研修を実施する。
〇体験型英語学習推進事業
県内６地区程度をモデル市町村として指定し、小学校高学年と、中学生を対象にした英語体験施設の訪問や、オンラインによる英会話、また市町村で行う英語関連イベント等の体験型英語学習を位置付け、英語教育モデルの開発を行う。
〇授業構想力･評価力を高める授業実践講座
各地区の外国語科のミドル層の教員を中心に、思考力を測るテストから逆向き設計で授業構想する授業づくり研修会を実施する。

様式１：高等学校

令和５年度　福岡県　英語教育改善プラン

目標

〇CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合53.5%
〇50%以上の時間で英語による言語活動を実施している教員の割合50%

１．現状

改善が進んだ点

①**生徒の英語力の全体的な向上**
CEFR　A2レベル以上相当の生徒の割合
R3:49.7%
R4:50.6%
②**実践的な英語コミュニケーション能力を育成する英語指導**
③**CAN-DOリストの改善による英語の授業改善**

未だ改善が必要な点

❶**授業における、生徒の英語による言語活動の割合**
50%以上の時間で生徒の英語による言語活動を実施している教員の割合
R4:35.4%
❷グローバルな視野を身に付けるための**海外経験**
❸**英語教師の英語力**
R4:76.1%(CEFR B2以上取得者)

２．分析

①②
英語活動指導員(EAS)やネイティブ英語教員(NET)の**外国人材による公開授業及び研究協議による研修**の実施

③CAN-DOリスト作成に係る**説明指導、改善と実施報告、公表の指導**

❶平成30年告示学習指導要領で求められる英語指導についての理解不足、指導方法の好事例の共有等の不足など

❷コロナ禍による、**海外留学希望者の減少**
❸英語資格・検定試験**受験者の減少**

３．施策・事業

①②
外国人材の更なる有効な活用
・英語活動指導員（EAS）による英語イマージョン教育の推進
・ネイティブ英語教員（NET）によるコミュニケーション能力育成重視の英語授業の展開
→公開授業と研究協議を実施

③CAN-DOリストの**見直し・改善指導**

❶教育課程研究集会等における**指導方法の事例共有**

❷**海外研修（オンライン含む）**に係る事業
・「福岡から世界へ」人材育成プロジェクト
・「Stanford e-Fukuoka」プログラム
・短期留学助成金事業

❸**文部科学省の各種事業の活用推進**
・英語資格・検定試験助成制度の活用
・「先導的オンライン研修」事業の計画的受講